

- 第3回と第4回で**料金水準**に関する議論を行い、第5回と第6回で料金体系に関する議論を行う予定。

30 年度	第1回（5月7日） 第2回（8月3日）	横浜市水道局の概要及び課題への取組 現行料金体系が抱える課題	現状と 課題
	第3回（10月22日） 第4回（本日）	本市にふさわしい更新事業費の水準と 耐震化のペース 財政収支見通しと企業債活用の考え方	料金 水準
	第5回（3月中旬）	本市にふさわしい料金体系の方向性 （加入金の在り方検討を含む）	料金 体系
31 年度	第6回	本市にふさわしい料金体系の方向性 （料金改定を行う場合の条件や配慮すべき事項）	料金 体系
	第7回 第8回	答申案の審議 答申案の取りまとめ	取り まとめ
		答申	

2 第3回審議会でもいただいた主なご意見 ①

施設更新・耐震化の水準のパターンに対するご意見

- 管路の更新について、パターンAでも他都市よりも目標は高いと思うが、復旧に1週間以上を要するのは長いと感じる。Aよりも更に更新を進めるパターンは検討していないのか。
- パターンBでは、発災時の断水戸数が7万8千戸となっているが、特に高齢者や高層マンションの住民にとって断水は非常に厳しいと考える。この断水戸数は許容範囲内のリスクと考えているのか。また、被害に対してどのような対策を考えているか。
- 現行よりも整備水準を上げるとすると、更新事業費や料金への影響に加えて、更新工事を担えるだけの十分な人材を水道局で確保できるのか。その点も考慮すべきである。
- 局独自の耐用年数の採用により、会計上の耐用年数よりも長い耐用年数を設定したわけだが、前倒しして更新すると、局独自の耐用年数を待たないで更新することになる。もし長く使えるのであれば、できるだけ持たせた方が良いという考え方もある。
- 各パターンの更新事業費を採用した場合に、どれだけ料金に影響するのかといった情報を提供いただきたい。

2 第3回審議会でいただいた主なご意見 ②

施設更新・耐震化に関するその他のご意見

- 更新・耐震化のペースの検討は料金負担に大きく影響するため、このことを市民に対してもしっかりと伝えるべきではないか。
- 横浜市の水道システムの特徴の一つである、環状ネットワークは素晴らしい仕組みである。横浜市と企業団で半分ずつ水源施設を持つこともリスク分散から望ましいと考える。
- 更新を進めるにあたっては、水道事業からの視点だけでなく、災害時の重要施設の状況や他のライフラインも考慮する必要があるのではないか。
- アセットマネジメントは予防保全の考え方に立つものであり、40年後に老朽化した、いわゆる負の財産を持つてはいけないと考えている。そのような観点からは、金利の低い現在において先行投資をすべきという方針も考えられる。
- 水道施設については、需要が減少してもインパクトの大きいダウンサイジングがなかなか難しいようだが、浄水場の統廃合は一定の効果がある。
- 最終的に市民に説明する際には、将来の負担者である小中学生にも理解できる分かりやすい資料が必要。

3 第3回審議会で示された施設更新・耐震化の水準（振り返り）

項目	基幹施設	管路 ※1							合計
		パターン	年平均更新費用約(億円)	年平均更新延長約(km)	耐震管率(%) 400mm以上 ・ 全口径	発災時断水戸数約(戸)	延べ断水戸数約(戸×日)	給水装置を除く復旧日数(日)	
H72年度時点	104	A	271	115	100% 76%	0.8万	5.5万	12	375
		B	253	109	93% 74%	7.8万	59万	15	357
		C	224	96	85% 68%	10万	95万	19	328
		D	204	87	80% 64%	11万	110万	21	308
現時点 ※2	79		216	110	50% 25%	43万	1030万	43	295

※1 ここでの管路とは、送・配水管のこと

※2 現行中期経営計画（H28～H31）時点の数値又は計算値

4 第3回審議会でもいただいた主なご質問

	質問要旨
第3回	自然流下方式の浄水場を再整備するのは非常に良い方法であるが、自然流下方式の浄水場を使用することにより、1 m ³ あたりのエネルギー量やCO ₂ 排出量にどのような影響があるのかを示していただきたい。
	お客さま意識調査の他の設問の結果が知りたい。

5 第3回審議会でもいただいた主なご質問に対する回答

系統別のエネルギー量及びCO₂排出量

- 自然流下系の道志川系統、相模湖系統に比べ、ポンプ等を使用している馬入川系統は電力使用量やCO₂排出量が多い。

取水～浄水処理に要する1 m³当たりの電力使用量とCO₂排出量（平成28年度）

系統	1 m ³ 当たりの電力使用量 (kWh/m ³)	1 m ³ 当たりのCO ₂ 排出量 ※ (g-CO ₂ /m ³)
道志川系統 (川井浄水場)	0.016	51.01
相模湖系統 (西谷浄水場)	0.064	53.21
馬入川系統 (小雀浄水場)	0.493	264.87

※ CO₂排出量は電力使用量だけでなく、薬品使用量等の影響を受けるため、電力使用量に比例しない。